

# 医科歯科連携から考える 摂食嚥下と口腔ケア

在宅医療の重要性が高くなる中、疾患の進行に伴い、嚥下機能や口腔機能に何らかの問題をもつ患者が多いと考えられます。現在、医科・歯科が連携して診療を行ううえで必要な知識や情報を共有することが求められています。今回の医科歯科連携研究会を機に嚥下障害での連携のきっかけになることを願って本研究会を開催します。皆様のご参加をお待ちしております。

日時

4月21日(日)

14:00~16:30

会場

プラザ洞津 孔雀の間

(三重県津市新町1丁目6番28号 TEL:059-227-3291)

参加費  
無料

講演1

「嚥下動態に影響する姿勢

～口腔相から食道相まで：体位効果を利用した嚥下リハビリテーション再考～

藤田医科大学医学部 ロボット技術活用地域リハビリ医学  
教授 太田 喜久夫 氏

講演2

「医療連携において歯科衛生士のできること

～急性期から維持期まで続く口腔ケア～

松阪中央総合病院 リハビリテーション科  
歯科衛生士 近田 紀子 氏

定員

90名(先着順)

対象

医療・介護関係者など

応募方法

参加をご希望の方は事前にお申込みください。

●4月21日(日)医科歯科連携研究会「医科歯科連携から考える摂食嚥下と口腔ケア」参加申込書●

三重県保険医協会 / FAX番号 : 059-225-1088

/ TEL番号 : 059-225-1071

■ 4月21日(日)開催の医科歯科連携研究会

「医科歯科連携から考える摂食嚥下と口腔ケア」に \_\_\_\_\_ 名 参加申し込みします。

代表者名(所属) \_\_\_\_\_ (\_\_\_\_\_)

連絡先 \_\_\_\_\_

## 講演 1

# 「嚥下動態に影響する姿勢

～口腔相から食道相まで：体位効果を利用した嚥下リハビリテーション再考～」

講師：藤田医科大学医学部 ロボット技術活用地域リハビリ医学  
教授 太田 喜久夫 氏

「食べること・飲むこと」は、物理的現象としては食べ物を口腔から食道へ輸送することです。

今回の講演では、嚥下CT検査で明らかになった知見をもとに、空気のある場合と無い場合の咽頭腔・食道における食塊移送について画像を用いて供覧し、嚥下リハビリテーションとしての代償手技としての体位効果の利用法について解説します。

また、嚥下内視鏡を用いて姿勢による嚥下動態変化の様子をデモンストレーションします。



## 講演 2

# 「医療連携において歯科衛生士のできること

～急性期から維持期まで続く口腔ケア～」

講師：松阪中央総合病院 リハビリテーション科  
歯科衛生士 近田 紀子 氏

地域での要介護高齢者を支えるためには、保健・医療・介護のそれぞれの専門職が協働し、多職種間での連携が不可欠とされています。患者や家族の想いに寄り添い、多職種で情報共有し目的意識を持ち口腔衛生管理や口腔機能管理に関わることは歯科衛生士の責務ですが、それは急性期病院から維持期の在宅まで途切れることがあってはなりません。

特に誤嚥性肺炎や摂食嚥下障害に対するアプローチは QOL や生命予後に大きく関与するため歯科衛生士は「何ができるのか？」を多職種に示し信頼を得ること、また口腔ケアサマリを活用し歯科衛生士同士の連携を深めることも重要だと考えます。

今回は歯科標榜のない急性期病院内での取り組みと地域での口腔ケア活動をお話したいと思います。



## < 当日スケジュール (予定) >

◆開 会

◆講演 1 「嚥下動態に影響する姿勢」(太田喜久夫氏) 14:05～15:15 (約 70 分)

◆講演 2 「医療連携において歯科衛生士のできること」(近田紀子氏) 15:25～16:05 (約 40 分)

◆質疑応答 ※お困りの事例に対して講師やフロアから回答します。

◆閉 会